

第26回

「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞作品集



山形県農業協同組合中央会
山形県農協農政対策本部



「ごあいさつ」

山形県農業協同組合中央会

会長 佐藤晴登

第二十六回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに作品を応募された皆さんに、心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今回は、県内の小・中学校から作文部門において二七九点、また図画部門において一、一五五点もの力作が寄せられました。これらは、学校の先生方をはじめ、関係する方々の深いご理解の賜と感謝申し上げます。

私どもＪＡグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはんと健康の結びつきを見直してもらおうとともに、食料・農業・農村に対する理解を一層、深めてもらうことを目的として、このコンクールを実施してから、今年度で二十六回を迎えることとなりました。

日本が経済大国といわれるようになって久しくなりました。しかし、豊かな生活の中で多くの大切なものを失いつつあります。食生活の面からみると食料自給率は四〇%以下で、先進国の中では最低の水準にあります。また、朝食の欠食などの食習慣の乱れや栄養バランスの偏りなど大きな課題とされておりあります。

私たちは、将来を展望し国内で生産できるものは国内で生産することを基本に、日本人の主食でもある米も、日本国内で生産し、いつの時代も安全で、安定して皆さんに供給できるしくみを守つ

ていく必要があると考えております。

また、食生活の改善や健康増進、生活の質の向上をはかるため、お米を中心とした日本型食生活を推進する必要があると考えております。

山形県では、昨年の十月「山形県農業基本条例」を制定しました。農業、農村を県民の貴重な財産と位置づけ、県民が一体となつて山形県農業を新たに構築する必要があるとしております。主な施策として、「地産地消」や「食農教育」の推進等が挙げられております。ＪＡグループでは、小・中学校のご協力をいただきながら「総合的な学習の時間」を活用した取り組みなど、それぞれの地域の特徴を活かした取り組みをお願いすることとしております。

今回、入賞されました皆さんの作品には、農作業する姿、おにぎりを食べている姿、ごはん・稲作を通じ、家族との暖かい交流など、自分自身の体験を通じて感じた気持ちや素直に、いきいきと表現されています。

これからも美しい自然を大切に、家族を大切に、心を育んでいただくことを期待しております。

最後に、審査員の先生方をはじめ、小学校・中学校の先生方、ご父兄の皆さん、県ならびに各ＪＡのご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、このコンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、挨拶と致します。

第26回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

作文部門

1部(小1年~3年)

山形県知事賞	今井 大輔	鶴岡市立朝陽第二小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	水谷ひらり	山形市立桜田小学校	3年
優 秀 賞	小野寺陽奈	朝日村立大泉小学校	1年
"	大場たくや	最上町立大堀小学校	2年
"	鈴木 玲奈	高畠町立時沢小学校	2年
"	後藤なつみ	高畠町立屋代小学校	3年
"	志藤 貴俊	三川町立横山小学校	3年

2部(小4年~6年)

山形県知事賞	佐藤 世和	米沢市立広幡小学校	5年
山形県農協中央会会長賞	結城 智裕	最上町立赤倉小学校	4年
優 秀 賞	大場 麻由	最上町立大堀小学校	4年
"	大場 剛	最上町立赤倉小学校	5年
"	和田真由子	鶴岡市立三瀬小学校	5年
"	石山 樹里	最上町立富沢小学校	6年
"	清野 郁	朝日村立朝日小学校	6年

3部(中1年~3年)

山形県知事賞	小野寺千賀	朝日村立朝日中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	渡辺真理子	高畠町立第一中学校	2年
優 秀 賞	佐藤 和磨	山形市立第九中学校	1年
"	清野 優	朝日村立朝日中学校	2年
"	清野 舞	朝日村立朝日中学校	3年
"	遠藤 晃毅	朝日村立朝日中学校	3年
"	井上 寛子	天童市立第三中学校	3年

学校奨励賞

最上町立赤倉小学校
朝日村立朝日中学校

図画部門

1部(小1年~3年)

山形県知事賞	清野 史拓	朝日村立朝日小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	武田 翼	尾花沢市立福原中部小学校	1年
優 秀 賞	阿部 奨平	尾花沢市立寺内小学校	1年
"	佐藤 奨啓	寒河江市立寒河江小学校	2年
"	国分 健太	尾花沢市立名木沢小学校	2年
"	工藤 大周	西川町立沼山小学校	3年
"	佐藤 秀太	寒河江市立寒河江小学校	3年

2部(小4年~6年)

山形県知事賞	小林 由佳	山形市立第七小学校	6年
山形県農協中央会会長賞	須田 雄飛	鶴岡市立栄小学校	5年
優 秀 賞	五十嵐 隼	朝日村立朝日小学校	4年
"	土屋 趙史	尾花沢市立常磐小学校	4年
"	安達 美咲	高畠町立時沢小学校	5年
"	倉金 侑香	尾花沢市立明德小学校	5年
"	永沢 都	尾花沢市立上柳小学校	6年

3部(中1年~3年)

山形県知事賞	高島 香織	山形市立金井中学校	2年
山形県農協中央会会長賞	小松 恵梨	山形市立金井中学校	2年
優 秀 賞	田村 里奈	山形市立金井中学校	1年
"	村上 美紀	山形市立金井中学校	2年
"	須貝 恵美	山形市立金井中学校	2年
"	本田 裕子	山形市立金井中学校	2年
"	長岡亜由美	山形市立金井中学校	2年

学校奨励賞

朝日村立朝日小学校
山形市立金井中学校

全国審査における入賞者

全国農業協同組合中央会会長賞

(作文・1部)	庄司 光	藤島町立藤島小学校	3年
(作文・3部)	本間 公章	温海町立温海中学校	1年
(図画・3部)	斉藤祐季子	山形市立金井中学校	2年

優秀賞

(作文・2部)	結城 智裕	最上町立赤倉小学校	4年
(作文・2部)	佐藤 世和	米沢市立広幡小学校	5年
(図画・1部)	佐藤 奨啓	寒河江市立寒河江小学校	2年
(図画・2部)	倉金 侑香	尾花沢市立明德小学校	5年

(注) 氏名の前の 印は、全国審査における優秀賞を併せ受賞した者。

「刈り入れどき」



山形市立金井中学校2年

斉藤 祐季子

山形県知事賞

「じどしもおいしいお米がとれるといいな」

朝日村立朝日小学校二年

清野史拓



山形県農業協同組合中央会会長賞

「おいしいチャーハンはやくたべたいな」

尾花沢市立福原中部小学校一年

武田翼



山形県知事賞

「稲刈りの季節」

山形市立第七小学校六年

小林 由佳



山形県農業協同組合中央会会長賞

「刈^かってやる」

鶴岡市立栄小学校五年

須田 雄飛



山形県知事賞

「おじいちゃんのお手伝い」

山形市立金井中学校二年

高島香織



山形県農業協同組合中央会会長賞

「お米との思い出」

山形市立金井中学校二年

小松恵梨



全国農業協同組合中央会会長賞(作文1部)

「ぼくのお家のおいわいごはん」

藤島町立藤島小学校三年 庄司 光

ぼくの家では、家ぞくのたん生日にはかならずケーキと、生まれた人のきせつのおいしいごはんかその人の大好きなごはんでおいわいをすることになっています。

四月生まれの宇兄さんのときはもうそうのたきこみごはんです。

五月のお父さんのたん生日には、お父さんのお兄さんが山でとってきた月山だけのごはんです。

七月のお母さんのたん生日にはお母さんが大好きなあずきのたくさんはいったおせきはんです。

八月のおばあちゃんのたん生日には、おばあちゃんが

畑でつくったおいしくてきれいな緑色のえだ豆ごはんです。

九月のぼくのたん生日には宇兄さんが生まれた時にうえたうらにわのくりの木からおちたたくさんのかくりをみんなでひろってそれをすこしほして、おいしいおいしいくりごはんになります。

十二月の観兄さんのたん生日には、クリスマスもちかいのでかならず、観兄さんの大好きなおすしです。

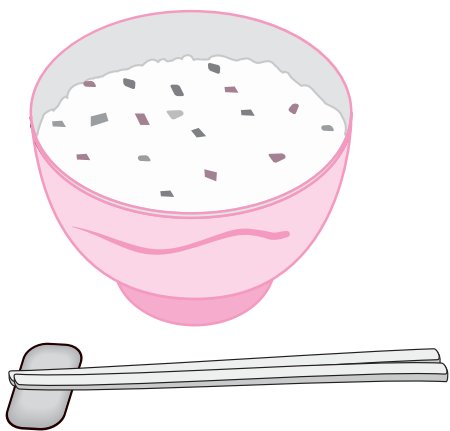
ときどき、おいなりさんとかのりまきずしとかもです。そして、たん生日には、かならずおじいちゃんやひいおばあちゃんのぶつだんにおいしいごはんをたくさんあげておいわいをしてもらいます。

たん生日に食べるおいわいごはんがとてもおいしいのは、ふじ島のお米をつかっておばあちゃんやおかあさん

が心をこめて手作りをしてくれて、おいわいごはんの中
に入れるざいりょうもこのへんでとれたり作られた物を
つかっているからだと思います。

そして家ぞくみんなで楽しくおいわいするからです。

ぼくは、おいわいごはんが大好きです。



全国農業協同組合中央会会長賞(作文3部)

「みんなの力で米作り」

温海町立温海中学校一年 本間 公章

僕の家で作っている米は、とても美味しいです。その理由は三つあります。一つ目は、田んぼが中山間地であり、生活排水の入らない山水だけを使っていることです。二つ目は、今はコンバインで刈り取った後、すぐに乾燥機に入れることが多い中、今もまだ、杭がけをして自然乾燥していることです。三つ目は、種まきから脱穀まで全て家族みんなで行っていることです。

僕も小さい頃から、田んぼで遊んだり、手伝ったりしてきました。小さい頃は手伝うというよりも、遊んでいたというのが正しいかもしれません。田んぼには、タニシやイナゴ、トンボそれにカマキリなどがいて、これらの生き物と遊びながら、父や母や祖父の働く姿を見ることができました。

田んぼの仕事は、力仕事が多く、そして根気のいる仕

事です。僕は今でもすぐ疲れたり、飽きてしまうのに、父も母も祖父も一生懸命で生き生きと働いています。そんな家族の姿を見てみると、僕も頑張ろうという気持ちがどんどんわいてきます。

中学生になった今年の春、父に「代かきをやってみろ」と言われ、僕はやる気満々で田んぼに出かけました。今まではいたことのない特長という長靴をはき、身支度を整え、いざ耕耘機始動。父に言われた通り、引っ張ってみましたが、エンジンがかかりません。しかし、父がやったら一発でエンジン始動。さすが。気を取り直して次の作業。機械の操作を教わり、いよいよ代かきの始まりです。父を見ているとこれまた簡単そうに見えます。実際僕がやってみると大変でした。曲がるときのタイミングが合わなくて、土手を削ってしまったり、むらになったり、機械に足がついていかなかったり、もうメロメロ状態でした。でも、やっていくうちに、だんだん慣れてきて、何とかできるようになってきました。悪戦苦闘し、やっとのことで代かきが終わりました。仕事を終えた後、父と一緒に飲んだジュースは、とても美味しかったです。そして、ちよっぴり大人になったような誇らしい気持ち

になりました。

中学生になった僕に、代かきをさせてくれたのには理由がありました。父も中学一年生の時に、祖父から初めて代かきを教えてもらったそうです。そんな思い出から、中学一年生になった僕にも、代かきをさせてみようと思ったのだそうです。祖父から父へ、父から僕に代かきのバトンが渡されたんだと思いました。二人分の思いが詰まったバトンを受け取ったかと思うと心がキューンと鳴り、それと同時に熱いものがこみ上げてきました。そして、疲れていたはずの体が自然とシャキッとしました。

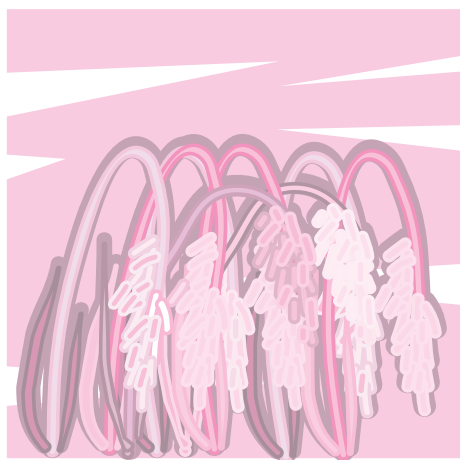
米は八十八の手間暇かけて作られると言いますが、本当にたくさんの労力と時間をかけて作られるものだと思います。こんな大変な仕事は、一人では絶対にできません。漁業をしながら主に祖父が管理しています。父も仕事から帰った後や、休みの日には田んぼの仕事をします。忙しい田植えや稲刈り、脱穀の時などは、家族みんなで力を合わせてやります。時には、親せきの人の応援をもらうこともあります。

今年の春、ちょうど田植えの頃、祖父が病気で入院してしまい、田植えは父が仕事から帰ってから何日もかけ

てやらなければならなかったのですが、親せきのおじさんが手伝ってくれることになりました。父と母は本当に助かったと喜んでいました。そのおじさんは、自分も入院した時に、祖父に助けてもらったことがあったそうです。

米作りは一人では出来ません。家族や親せきの力をかり、助け合い、力を合わせて作られるんだと思いました。今春、家族と親せきみんなで植えた稲はぐんぐんと成長し、穂を出し実りの時を迎えようとしています。

今年の米は、きつと一味違うと思います。



山形県知事賞

「大すきなごはん」

鶴岡市立朝陽第二小学校二年 今井 大輔

ぼくは、ごはんが大すきです。おばあちゃんが、「おいしいごはんの作り方をおしえてあげるよ。」と言うので、べんきょうすることにしました。

きらきらの「はえぬき」のお米を電気ガマに五合入れて、ごしごしと水でながしました。水を一リットル入れて、スイッチを入れました。二十分すぎると、電気ガマのふたの穴から、ぶくぶくという音とゆげがもくもくとあがりました。三十分たつと、電気ガマのスイッチがきれました。おばあちゃんは、「十分間むすのだよ。」と言ってくれました。ぼくは、十分がまちどおしかったです。かまのふたをあけたら、何とも言えないかおりがしました。かまの中をのぞくと、ピカピカと光って、白いごはんがたけていました。「早く食べたいなあ。」と言ったら、おばあちゃんは、「大輔が、はじめてたいたごはんだか

ら、しんだお母さんにあげてから食べてね。お母さんが生きていたらどんなに喜ぶかなあ。」と言いました。ぼくも、「自分でたいたごはんだよ。」と言ってぶつだんにあげました。お母さんのしゃんが笑っているように見えしました。

家ぞくと親せきの人とみんなで食べました。おばあちゃんがやきにくを作ってくれました。ぼくは、ごはんがおいしいくておいしくて五はいも食べました。親せきの子供は、おなかがいっぱいになって、ズボンをめぎしました。そして、「おいしかった。」と言って、ごろんとたたみにねころびました。お父さんは、「大輔、家には田んぼもある。米もたくさんあるから、いっぱい食べるよ。」と言いました。おばあちゃんは、「大輔たいたごはんは、つけものがあると何もいらぬい。」と言って二はいも食べました。みんながおいしいと言ってくれて、とてもうれしかったです。

ぼくは、これからもうごはんをもりもり食べて、サッカーやうんどうをがんばりたいです。

山形県農業協同組合中央会会長賞

「おむすびはわたしの力」

山形市立桜田小学校三年 水谷ひらり

わたしの家のお米は、はえぬきです。のうやくをへらして作った、とびっきりこつきゅうのお米です。そのお米でおむすびを作ると、ほつぺたがおちそうになるくらいおいしいです。だからわたしは、いつもおやつに、おむすびを三つも食べます。

わたしは二年生のとき、お友だち二人といっしょに、公園でおべんとう会を開きました。みんなでおいしく食べていたら、一人のお友だちが、

「ひらりちゃん！そのおむすびおいしいそつだね。」
と言いました。わたしは、

「一口食べてみる？おいしいよ。」
と言つと、もう一人のお友だちも、

「あたしも一口でいいから食べたいんだけど。」
と言つたので、

「どつぞどつぞ、食べていいよ。」

と言つてあげました。するといきなり、

「おいしいー！」

「ほんとにおいしいー！」

と言つてくれたので、うれしかったです。

お友だちは、

「ありがとう、ひらりちゃんのおべんとう食べさせてくれて。わたしのしゃけむすび食べてみて。」
と言つてくれたのでもらいました。

わたしの家では、母が、三合たいても、わたしと父とで、ぜんぶたいらげてしまいます。わたしはちゃん山もり三ばいも食べます。父も、おいしいおいしいと言つて、いつもおべんとうのごはんをたいらげます。わたしは、家のお米を、自まんしたいくらい大好きです。ほんとおいしいんですよ！みなさんにもぜひひさしあげたいくらい、わたしのお家のお米はさらにおいしいのですよ。みなさんも、はえぬきをかつてのうやくをへらしてみませんか？

山形県知事賞

「将来の夢は米作り農家」

米沢市立広幡小学校五年 佐藤 世和

ぼくは、小学五年生です。家が農家なので小さい時からコンバインなどにのせてもらっていました。そして、保育園のころから、米作りの手伝いをするようになりました。だから、ぼくは、いつの間にか、農家をつくという夢をもつようになりました。安くておいしいお米を作って、いろいろな人に食べてもらいたいと思っています。

ぼくの家は農家で、はえぬき、コシヒカリ、ミルクィクィーンなどの米をつくっています。それを売って生活しています。今は、東京・北海道・千葉などに販売しています。

東京の八百屋さんのホームページにのせてもらって注文をつけつけたり、そば屋さんの店頭においてもらって注文をつけたりして販売します。お米をおくると、

「おいしかったよ。」

と電話がきます。家の人は、その言葉を聞くと、とてもうれしそうです。家の人は、おきやくさんにもっと喜ばれるように、安全でおいしいお米をつくるためがんばっています。

ぼくは、今年も米作りの手伝いをしています。春は、種を塩水につかべてういたのをえらんだり、なえばこを消どく液につけてあらったりします。田植えの時は、いねをはこんだり、田植え機が入らない所に手で植えたりします。夏は、お父さんといっしょに田んぼをまわり、水を止めたり入れたりしています。全部の田んぼを見るので大変です。秋のいねかりの時は、かどかりをして、コンバインに入れます。機械音がうるさいけど、がまんしてがんばります。冬は、農協や米の倉庫につれていってもらいます。ほかには、精米の手伝いもしています。お客さんから注文をもらってと精米をしてふくろにつめておくります。

ぼくがお手伝いをするとき、お父さんは、おこづかいをくれたりアイスをかってくれたりします。でも、仕事をちゃんとしないと、

「まじめにやれ。」

とすぐおこられます。とてもきびしいお父さんだけど、ぼくは、お父さんをそんけいしています。いろいろな工夫をして、お米を作りお客さんにとても気をつかっているからです。

ぼくは、将来はんばいするお米の名前を考えています。その名前は「米太郎」キャッチフレーズは、「はじけるおいしさ、元気のみなもと！」です。なるべく化学肥料を使わず安全でおいしいお米を作っていきたいです。

ぼくは、来年、田んぼを一つ自分の手で育てることになりました。とても不安だけど、自分のうで前がどのくらいか楽しみです。

これからも米作りの手伝いをして、お客さんに喜ばれるようなお米を作っていきたいです。



山形県農業協同組合中央会会長賞

「水源をさがしに」

最上町立赤倉小学校四年 結城 智裕

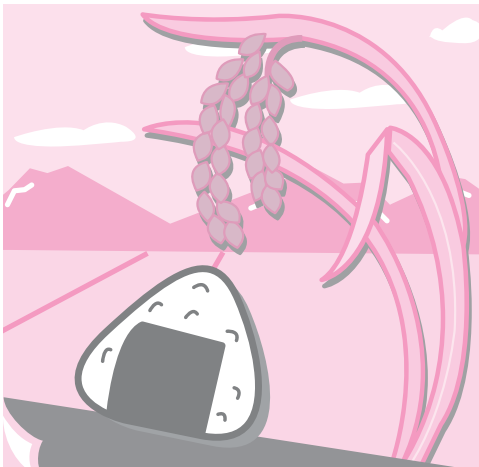
ぼく達、三・四年生は、そう合的な学習で、「赤倉米を育てよう」というテーマを決め、田んぼをかりていねを育てています。米作りは、水稲といわれるように、水がかかせません。でも、ぼく達の田んぼの水が、どこから来ているか分かりませんでした。そこで、八月十日に、水源をさがしに行きました。ぼくは、近い所にあると思っていました。だけど歩いてても歩いてありませんでした。ぼくは、「こんな所に川があったんだ。」と思いました。どんどん歩いていくと道がせまくなってきました。と中に、マンブという穴がありました。この穴は、昔の人が、山をくりぬいてせきにし水が流れるようにしたものです。とてもきれいな水が流れていました。昔は、そこで遊んだそうです。ぼくは、マンブを見るのは、初めてで、とっても大きくてびっくりしました。どんどん歩くと、

植物や虫が多くなっていきました。「こんな所になんて岩があるんだろう」と思っていると、へそ岩とよんでいふということを教えてくれました。どうくつがあつて、その中には、一匹のコウモリがいました。やせいのコウモリを見るのは、初めてでびっくりしました。どうくつのわきの道は、歩くはばがメートルありませんでした。そこをぬけると、少しずつ広くなって行きました。川では、つりをしている人もいました。大人の人達は、「もつすこしだからがんばれー。」

と言ってくれました。その声にはげまされました。でもつかれてへとへとでした。道には、穴があいて、ジャンプしてわたらないとだめな道もありました。へびや、トカゲもいました。昔は、こつちの方まで田んぼがあつたと聞いて、「こんな所まで田んぼがあつて歩くのたいへんだなあ。」と思いました。道には、木がたおれていたりしました。ぼくは、山とかに行くのは、「たいへんなんだ。」と思いました。昔の人達は、赤倉地区で田んぼを作るために、こんな所まで、なん回も来てすごいと思いました。やっとのことで、水源に着きました。みんな、

「つかれた、つかれた。」

と言っていました。思っていたより、水源は、遠かったです。ぼくは、水源を見た時に「ぼく達の田んぼに来ている水は、ここから何キロも流れてくるんだな。こんなに遠くから水を引けるようになってくれた昔の人に感謝しなきゃな。」と思いました。ぼくは、水源に、葉を流したら、ぼく達の田んぼに着くんだろうなとも思いました。昔の人がとてもたいへんな思いをして引いた水を使っているんだから、これからもがんばって世話をし、おいしいお米を作りたいです。



山形県知事賞

「お米の海」

朝日村立朝日中学校三年 小野寺千賀

私の家では米を作っています。毎年私は、何か手伝います。

今年はず、「そね洗い」をしました。そねというのは、苗を作るために田んぼに並べてナイロンをかぶせて大きくするための大事な土を入れる浅い入れ物です。そねを洗う時は、池にためておいて、一つ一つ手で洗います。それはたくさんあってとても大変です。家には、四百五十枚くらいもあります。私は、それを手伝うのがすごく好きです。ずっとしゃがんで足が痛くなるし、洗っても洗っても減っていく感じがしないけれど、おばあちゃんといっしょに洗っていると、時間がたつのも速いし、どんどん減っていく感じがします。

おばあちゃんといろいろ話しながら手伝います。話の中によく出てくるのが、

「今日の給食はなんだけや？」

という質問です。私はその日のメニューをいい、特に変わりごはんがでてくると、

「ほー、うまさだーじや。」

と、本当に食べたそうにいいいます。そうすると、そね洗いの仕事も楽しくすることが出来ます。

そね洗いの前には、機械でそねの上に水をかけるのも手伝いました。おばあちゃんがだんだんこしや足が痛くなってくると、私がたったりしゃがんだりする仕事を交代してやってあげます。仕事は疲れるけれど、仕事の後に食べるおやつやごはんはいつもの倍、おいしく感じます。

そして夜、炊飯器を開けると、「ジワー」と音がして、真っ白いごはんがツヤを出して輝いています。それは、お米の海という感じです。とてもすんでいます。きらきら輝く海、広がる海が浮かんできます。お米の海を他の人も想像できるでしょうか？

とってもおいしそうでふかふかしているごはんです。その米を私達はいつも食べています。とても幸せだと思います。おばあちゃんやお父さんたちがいっしょけん

めい汗を流して作った米は最高です。

その米を、おばあちゃんは、昼でかける時や山に行く時は、おにぎりとおつけものだけでもっていきます。おにぎりとおつけもの相しょうはとってもいいそうです。おにぎりになると米自体のおいしさを実感できるからでしょう。おつけものがまた自分の家で作ったものだとさらにおいしさがグンと広がります。

ごはんは私達の生活にかかせないものです。ごはんより新鮮で毎日食べてもあきない食べ物はありません。ごはんというのは不思議な食べ物だと思います。何をかけても食べられるし、何を合わせてもおいしいし、お互いを引き立てあいます。

米を使った料理はたくさんあります。カレーライス、オムライス、チャーハン、炒め飯など。どれも家で母や、祖母が作ってくれます。それは最高においしいです。また、自分で作ったものもおいしく感じます。

もうすぐ、稲かりです。稲かりは、大変です。父や祖母、母は、稲かりから帰ってくると、

「あいやー、ちかちかする。」

と言います。だから少しでも早く疲れをとってもらいた

いと思うので、すぐお風呂に入ってもらったり、すぐに横になって休んでもらったりします。

もうすぐふつかふかのおいしい新米が食べられることを思って、みんながんばっています。ずーっと炊飯器の中の「お米の海」を体験できるように、私もおばあちゃんのお手伝いをがんばりたいと思います。



山形県農業協同組合中央会会長賞

『『ごはん食』を未来へ』

高畠町立第一中学校二年 渡辺真理子

近頃、食の欧米化が進み、「ごはん」を食べる人が減ってきたと言われています。確かにパンもおいしいけど、かといって、ごはんなしの生活なんて想像できますか？身近なことほど分らないとよく言います。そのことで私は、貴重な体験をしました。

それは、小学生の時、モンゴルに行った時のことです。子どもだけの研修で、地平線を前に、広大な野原を馬でかけめぐり、大自然を満喫しました。その時はうらやましいなと思いました。でも、食べ物だけは、最後まで受け入れられませんでした。私の体験したモンゴル食といえば、牛乳を発酵させたもので、日本のチーズの味とはかけ離れたもの。それから羊肉。肉があるならと思いきや、岩塩の特殊なくせのある味が、私の口にはどうしても合いませんでした。ごはんも確かに出ますが、パサパ

サで、甘味もうま味もない米なので、いつも私達が食べているごはんとは、比べ物になりませんでした。だから、私が日本に帰ってきて一番食べたかったのは、当然「ほかほかのごはん」とみそ汁と漬け物でした。夕食に母の作った何気ない普通の食事なのに、私には貴重で、豪華なものに感じられ、何とおいしかったことが。その時の感動は今も忘れることができません。あの日は、母の温かみが伝わってきて、今まで味わったことがないおいしさだったのを覚えています。その時くらい、日本つていな、家庭つていいな、やっぱりごはんつておいしいなと感じたことはありません。

ごはんがおいしいと感じるのは、確かに私が日本に生まれ、米を主食に育ったからでしょう。それなのに、近年同じ日本の若者が「米離れ」の傾向にあることが叫ばれていて、私はとても悲しいことだと思っています。

私は、中学の地理や歴史の時間に、米と私達の関係について、かなり多くのことを学びました。それは、日本や東南アジアの気候が稲作にピッタリなこと。日本の文化は、稲作文化と切り離せないこと。さらに、日本国内の食糧自給率トップは、何ととっても米であること。ま

たそれにもかかわらず、欧米食化のため米の消費量が低下し、貿易摩擦からも減反政策をせざるを得なくなったことなどです。近所の減反の田を見る度、私は暗い気持ちになります。それ以来、私達がこのおいしい「ごはん」を未来へ伝えるにはどうするべきかに関心を持つようになったのです。

さて、皆さんはごはん食とパン食のどちらが日本人の体に合うと思いますか？きつと様々な意見が出るでしょう。現在、日本は世界一の長寿国とされています。私はこのことから、大昔、卑弥呼の時代から食べ続けられてきたごはん食が、健康で長生きする秘訣ではないかと、自分なりに考えています。

少し前の新聞で、「コンビニが米の消費拡大に一役」の記事を、またある時は、「とがずに炊ける無洗米登場」の記事を目にしました。手段はどうあれ忙しい現代には大変便利で、さらに米の消費アップにつながるというのですから一挙両得です。これはごはんを食べる機会をふやすことにもなり、明るい将来が期待できると思います。私は今後、たくさんの若者が、日本の食文化である「ごはん」を見直し、他人事でなく、一人一人が自分たちの

食文化の「ごはん食」を支えていこう、と自覚してくれたらと願っています。

今、私達はこの日本で生まれ、おいしい日本の味の代表である「ごはん」を食べることができると幸せを再認識する時が来ていると思います。私は、モンゴルへ行った時のあの体験から、日本の「お米」のおいしさや必要性、さらに日本の食文化の良さを、強く感じてきました。だから、自信を持って言えます。日本のごはんはおいしいです。私も精一杯応援します。もっと「ごはん食」を見直そうではありませんか。



作文部門審査講評

生 田 浩 樹

山形県教育庁義務教育課指導主事

第二十六回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール作文部門には、県内五十校から二七九作品の応募がありました。全国審査では、藤島町立藤島小学校三年・庄司光君の作品と温海町立温海中学校一年・本間公章君の作品が、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞するという優秀な成績を収めました。

審査を通して、ごはんやお米に対する作者の素直な気持ちや、家族との温かい交流の様子に触れることができたことは、何よりの喜びでした。また、体験に基づいた感動が綴られた作品や、農業の将来に目を向け、広い視野からごはんやお米について考えた作品からは、明るい希望を感じました。

では、県審査の結果と作品の紹介をいたします。

第一部（小学校一年生から三年生）の「大すきなごはん」（鶴岡市立朝陽第一小学校二年・今井大輔・県知事賞）は、初めて自分でいたごはんを、家族や親戚の人たちがおいしいおいしいと食べてくれたことで、ごはんがいつそう好きになった様子が素直に伝わってくる作品です。家族みんなに温かく見守られ、笑顔にあふれた食卓が目に見えそうです。

「おむすびはわたしの力こぶ」（山形市立桜田小学校三年・水谷ひらり・県中央会会長賞）は、農業を減らして作ったおいしいごはんを、みんなに自まんしたい作者の気持ちが伝わってくる作品です。お弁当会での友だちとの会話にも、喜びの気持ちがあふれています。父親と一緒に、ごはんを何杯もたいらげている様子は、微笑ましく感じられます。

第二部（小学校四年生から六年生）の「将来の夢は米作り農家」（米沢市立広幡小学校五年・佐藤世和・県知事賞）は、米作りに精を出し、お客さんに直接販売するという意欲的な取り組みをしている父親の姿に、誇りと尊敬の気持ちを抱いている様子が読みとれます。将来への夢と希望を綴った部分からは、明日の米作りを担う力強さを感じることが出来ます。

「水源をさがしに」（最上町立赤倉小学校四年・結城智裕・県中央会会長賞）は、水源をたどるといふ別の角度から地元

の米を見つめ直している視点が新鮮です。苦勞しながら水源を見つめる過程で、先人の苦勞や努力にまで目を向け、改めて地元の米の源となつていている水源の大切さに気づいた様子が、実感を伴ったものとして表現されています。

第三部（中学校一年生から三年生）の「お米の海」（朝日村立朝日中学校三年・小野寺千賀・県知事賞）は、苗のそね洗いをしながらはすむ祖母とのやりとりが、微笑ましく目に浮かびます。仕事をした後の炊飯器の中のごはんを、「お米の海、きらきら輝く海」と表現する作者の感性のすばらしさを感じさせる作品です。

「ごはん食」を未来へ（高畠町立第一中学校二年・渡辺真理子・県中央会会長賞）は、「日本の食文化」という大きな視点から、ごはんの価値を問い、考えています。異文化のモンゴルでの体験を通して、ごはんを中核とする食事のよさを実感として表している作品になっています。

全国農業協同組合中央会会長賞に輝いた「ぼくの家のおいしいごはん」（藤島町立藤島小学校三年・庄司光）は、家族の誕生日に作られる、その季節にあつたお祝いごはんのおいしさとお祝いの心が伝わってきます。おいしさと一緒に、それぞれの誕生日をみんなで祝い、喜ぶ家族の温かさを感じることが出来る作品です。

「みんなの力で米作り」（温海町立温海中学校一年・本間公章）は、祖父から父、自分へと受け継がれてきた代かきのバトンに、自らの成長を重ねて熱い思いが綴られています。家族の協力の大切さを実感し、その協力がおいしい米の味を決めるのだと胸を張って言えるすばらしさを感じます。

今、食と農を通した心の教育が大切であると感じています。豊かな体験、感動からは、豊かな感性が育まれます。来年度も家庭との連携が図られ、優れた実践が多くの学校で展開され、より多くの作品が寄せられることを期待しています。

図画部門審査講評

勝 野 清

山形市立第九小学校校長

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールが第二十
六回を迎えたことをお祝い申し上げます。このコンクールは、
昔から私たちのくらしに深くかかわってきた「米」「稲作農業」
について、児童生徒が改めて考えてみる、振り返ってみるた
めのとてもいい機会ではないかと思えます。今年も、ごはん
に対する思いや、体験を通じた稲作農業への関心の深さがう
かがわれる一、一五五点もの応募作品がありました。

入賞者の作品の中から、県知事賞および県中央会会長賞に
選ばれた作品と学校奨励賞について紹介いたします。

第一部（小学校一年生から三年生）の「ことしもおいしいお
米がとれるといいな」（朝日村立朝日小学校二年・清野史拓・
県知事賞）は、苗代つくりをしている人をよく観察し、家族が
力を合わせて仕事をしているようすがうかがえる作品です。
おじいさんのがっちりした、うでや手からは、米つくりひとす
じのたくましさを感じられます。長くつのスパイクやビニー
ルなわしろの水道のホースなどを愛情をこめて表現していま
す。人物を斜めに配置したところも画面に動きをあたえ魅力
ある作品にしています。

「おいしいチャーハンはやくたべたいな」（尾花沢市立福原中
部小学校一年・武田翼・県中央会会長賞）は、大小のご飯のつ
ぶつぶと、かきまわすへらが黄色の中で浮き立って実にお
いしそうです。お母さんの表情はおいしいチャーハンを作っ
てあげたいという愛情にあふれているようです。ピンクのシャ
ツと黄色の色調が画面を明るく幸せにしています。

第二部（小学校四年生から六年生）の「稲刈りの季節」（山形
市立第七小学校六年・小林由佳・県知事賞）は、収穫の喜びの
音が聞こえそうな作品です。自分の家の田んぼを二台のコン
バインが作業をしています。レバーやハンドルを握る手をよ
く観察しています。お父さんの様子を見に来たのでしょうか。
犬を連れた作者も描かれています。黄金色に実った田んぼが
美しく輝いています。

「刈ってやる」（鶴岡市立栄小学校五年・須田雄飛・県中央会

会長賞）は、自分達の実習田の稲刈りの風景でしょうか。稲の
握り方や鎌の使い方、目線などに作者の体験学習を通しての
自信と喜びがうかがえます。刈った稲束を頭上を回して地面
に置く動きのある動作や人物配置の工夫が生き生きとした画
面をつくっています。

第三部（中学校一年生から三年生）の「おじいちゃんのお手
伝い」（山形市立金井中学校二年・高島香織・県知事賞）は、
働いて得た実感が伝わる作品です。おじいさんが、一粒一粒
がしっかりと実った稲束を持ち上げようとしています。稲の香
りがするような色調で表現されています。刈り取られた稲の
切り株の影や、遠くに広がる田園風景などが愛情をこめて、
ていねいに描かれています。

「お米との思い出」（山形市立金井中学校二年・小松恵梨・県
中央会会長賞）は、実習田での稲刈りの絵です。友達と自分を
前面に大きく描き、後方に小さく級友の作業姿を置いて画面
に奥行を出しています。斜めに持った稲束が画面を引き締め、
また動きを出しています。白の帽子と白の軍手が画面を効果
的に明るくし、難しい土の色も美しい色彩で描かれています。
学校奨励賞は、朝日村立朝日小学校が選ばれました。地域
の中で農業生産の様子を自分の体験を通して愛情をこめて描
いた多くの作品を寄せています。

山形市立金井中学校は三年連続の受賞です。稲作に励む家
族の様子から主題を選び、構図、色彩などを十分工夫してい
ねいに描いています。

全国審査への推薦作品の中から、全国農業協同組合中央会会
長賞に斉藤祐季子さん（山形市立金井中学校二年）、優秀賞に
佐藤奨啓さん（寒河江市立寒河江小学校二年）、倉倉侑香さん
（尾花沢市立明德小学校五年）が選ばれました。誠におめでと
うございます。

来年度も多くの作品応募を期待しています。新世紀になっ
ても日本ならではの風景、田園での営みに美しさと良さを感
じる子供たちに育って欲しいと願っています。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 第15回～第26回 入賞一覽

作文部門 図画部門

第20回	第19回	第18回	第17回	第16回	第15回
<p>県知事賞 鈴木 裕美(高畠町) 堀 文子(酒田市) 高梨 邦拡(高畠町) 県中央会会長賞 小松 主音(高畠町) 柴田 育恵(大石町) 後藤 友岐(米沢市) 優秀賞 佐藤 駿佑(米沢市) 吉田 洋平(高畠町) 矢口 渡(鮭川村) 大場 智美(最上町) 奥山 恵里(最上町) 鈴木まりこ(山形市) 小山田由起子(河北町) 菅 晃太(最上町) 佐藤 舞子(米沢市) 伊藤理恵子(米沢市) 阿川 麻里(山形市) 東海林 宏(山形市) 中鉢 佳奈(天童市) 佐藤 紘子(朝日村) 清野 美幸(朝日村) 学校奨励賞 高畠町立和田小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>県知事賞 加藤 映(鶴岡市) 菅 晃太(最上町) 後藤 友岐(米沢市) 県中央会会長賞 奥山 恵里(最上町) 有川 聡美(村山市) 柿崎 真吾(山形市) 優秀賞 赤松かおり(最上町) 佐藤 夏佳(最上町) 岩瀬 直紀(高畠町) 菅原美由紀(米沢市) 阿部 達也(立川町) 安達 聖澄(山形市) 青山 光(山形市) 奥山 佳希(最上町) 佐藤 一貴(立川町) 荒木 秀(鮭川村) 土屋 秀恵(山形市) 高橋 祐也(山形市) 学校奨励賞 最上町立富沢小学校 山形大学教育学部附属中学校</p>	<p>県知事賞 佐々木歩惟(最上町) 有川 聡美(村山市) 森 直子(鶴岡市) 県中央会会長賞 萩原 晴菜(高畠町) 須貝 尚之(最上町) 後藤 友岐(米沢市) 優秀賞 情野 亮(米沢市) 柴田いくえ(大石町) 石山 雄洋(最上町) 後藤 卓也(最上町) 曾田 健(山形市) 菅 晃太(最上町) 庄司早也香(最上町) 二戸奈央子(最上町) 渋谷 昌宏(立川町) 五十嵐江利(朝日村) 今野小百合(米沢市) 鈴木 一恵(米沢市) 土肥 由美(米沢市) 小座間恵美(天童市) 田中 文(山形市) 学校奨励賞 最上町立向町小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>	<p>県知事賞 鈴木美佐登(山形市) 土江 麻代(最上町) 安部 祥子(高畠町) 県中央会会長賞 渡部みゆき(高畠町) 渋谷 昌宏(立川町) 田中 千鶴(山形市) 優秀賞 斎藤有貴子(鶴岡市) 斎藤 美香(立川町) 押切 一(最上町) 渋谷 奈央(立川町) 大場 知佳(最上町) 大沼喜世美(最上町) 管 千恵(最上町) 阿部英里香(最上町) 大谷 房子(最上町) 高橋 誠(最上町) 片桐 由嗣(山形市) 会田 雄介(山形市) 今野ひとみ(山形市) 鈴木加奈子(小国町) 伊藤 知行(小国町) 学校奨励賞 立川町立清川中学校 小国町立玉川中学校</p>	<p>県知事賞 田中美紀子(山形市) 阿部 政成(最上町) 鈴木祐紀子(山形市) 県中央会会長賞 澁谷 奈央(立川町) 大宮 佳代(山形市) 多勢 緑(南陽市) 優秀賞 庄司 竜太(最上町) 石山 幸喜(最上町) 原田ひろみ(山形市) 阿部 紋子(最上町) 大友 由香(立川町) 齋藤 幸(八幡町) 加藤 茜(最上町) 柴崎 幸(最上町) 大沼 春光(最上町) 菅 泰子(最上町) 横山 直樹(飯豊町) 鈴木恵美子(山形市) 高橋 邦枝(山形市) 佐藤 大輔(鶴岡市) 早坂美和子(大石町) 学校奨励賞 最上町立東法田小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 柴崎 幸子(最上町) 柳橋 祐輔(尾花沢市) 安部 政行(高畠町) 県中央会会長賞 結城 剛(最上町) 村上 秀和(八幡町) 落合 綾子(米沢市) 優秀賞 佐藤 智恵(最上町) 菅 めぐみ(最上町) 菊地 寛子(山形市) 渋谷 昌宏(立川町) 栗原美代子(山形市) 阿部小百合(最上町) 塩野 幸子(山形市) 海藤 亜矢(最上町) 斎藤 恵(最上町) 富澤 玲子(最上町) 佐藤 亜紀(山形市) 伊藤 好恵(山形市) 日詰 香子(鶴岡市) 青木ゆき枝(大石町) 近野 智恵(南陽市) 学校奨励賞 最上町立月橋小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>
<p>県知事賞 大類 祐美(尾花沢市) 白井 靖浩(尾花沢市) 斎藤 明子(山形市) 県中央会会長賞 深瀬 美幸(高畠町) 岩松 泉(山形市) 有路 奈央(大石町) 優秀賞 森谷 雄太(山形市) 長岡 希(山形市) 小林 龍宏(尾花沢市) 土屋 引一(南陽市) 工藤 誠昭(朝日村) 齋藤 啓(大石町) 加藤 初恵(尾花沢市) 奥山 和泉(尾花沢市) 岡野 咲子(最上町) 渡部 禎子(南陽市) 原田 沙樹(山形市) 池野まり子(山形市) 入間 利恵(高畠町) 青柳みちよ(高畠町) 阿部 陽一(朝日村) 学校奨励賞 最上町立向町小学校 山形市立第四中学校</p>	<p>県知事賞 伊藤 桃子(尾花沢市) 高橋 裕(最上町) 竹俣 太郎(山形市) 県中央会会長賞 樋口 裕斗(最上町) 高橋 一輝(尾花沢市) 武田由美子(山形市) 優秀賞 荒澤 雄太(山形市) 加藤 浩太(尾花沢市) 向田絵梨子(白鷹町) 白旗 典大(鶴岡市) 安野 妙子(鶴岡市) 大石 圭美(天童市) 長南 清香(朝日村) 鈴木 洋子(尾花沢市) 鈴木 雄太(尾花沢市) 島津 展子(高畠町) 松田多恵子(山形市) 佐藤ひとみ(山形市) 奥山 舞(河北町) 奥山 佳子(河北町) 菅原 陽子(大石町) 学校奨励賞 最上町立向町小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 堀内 智幸(高畠町) 瀬川 絵里(尾花沢市) 有路 奈央(大石町) 県中央会会長賞 伊藤 幸則(尾花沢市) 井上 夏美(大石町) 岡崎 沙織(山形市) 優秀賞 高橋 悠輝(尾花沢市) 高橋 惇二(寒川江市) 五十嵐政則(高畠町) 高橋 生耶(高畠町) 柳元 穰(尾花沢市) 高橋 祐樹(尾花沢市) 鈴木奈緒美(尾花沢市) 西塚 孝也(尾花沢市) 野口 聡子(東根市) 高橋 一輝(尾花沢市) 遠藤 美代(山形市) 柏倉 友美(山形市) 松田多恵子(山形市) 樋口 康子(白鷹町) 森 秀人(大石町) 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第四中学校</p>	<p>県知事賞 佐藤 真佑(尾花沢市) 板垣 由香(山形市) 県中央会会長賞 赤塚未奈実(天童市) 奥山 智明(尾花沢市) 優秀賞 五十嵐友明(鶴岡市) 大山 彰(尾花沢市) 折原 亮二(尾花沢市) 土屋翔太郎(尾花沢市) 永沢 将(尾花沢市) 菅 真珠美(最上町) 我妻 孝佳(米沢市) 西塚 葉月(尾花沢市) 大山 宏美(尾花沢市) 山口 陽子(尾花沢市) 五十嵐 悟(朝日村) 田村 久美(朝日村) 金田 夕紀(白鷹町) 佐藤 和郎(白鷹町) 小松 文恵(白鷹町) 学校奨励賞 尾花沢市立鶴子小学校 尾花沢市立玉野小学校</p>	<p>県知事賞 五十嵐弘之(尾花沢市) 笹原 文奈(尾花沢市) 大川 薫(山形市) 県中央会会長賞 笹原 伸吾(東根市) 渡邊 琢也(山形市) 西田 瞳(山形市) 優秀賞 伊藤 慎哉(尾花沢市) 三宅 結子(尾花沢市) 石澤 英和(山形市) 松田 陽樹(山形市) 大類 秀秋(尾花沢市) 落合絵美子(尾花沢市) 渡部 文子(羽黒町) 横山 樹理(川西町) 大山 智和(尾花沢市) 三宅 里美(尾花沢市) 渡部 祐也(朝日村) 近野 涼子(高畠町) 山口 健(南陽市) 新井まり子(高畠町) 学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 尾花沢市立玉野小学校</p>	<p>県知事賞 内藤 優治(立川町) 大場 友廣(山形市) 菅井 美加(山形市) 県中央会会長賞 松田 陽樹(山形市) 渡辺 真悟(尾花沢市) 佐々木美徳(山形市) 真木 洋子(山形市) 優秀賞 柳橋 裕介(尾花沢市) 高橋 賢一(尾花沢市) 井上 祐二(山形市) 棚鱒 麻美(高畠町) 笹原 佑美(尾花沢市) 田中 里絵(山形市) 奥山 和志(尾花沢市) 猪股 雅子(尾花沢市) 本間 智子(立川町) 斎藤 恵(最上町) 高井 深雪(高畠町) 五十嵐 恵(山形市) 花等 礼子(山形市) 斎藤 健(朝日村) 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校</p>

第26回	第25回	第24回	第23回	第22回	第21回
<p>県知事賞 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村) 県中央会会長賞 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高畠町) 優秀賞 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高畠町) 後藤なつみ(高畠町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(最上町) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 舞(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市) 学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>県知事賞 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市) 県中央会会長賞 森 麻美(榊引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村) 優秀賞 今井 大輔(鶴岡市) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤真生子(最上町) 齋藤 那千(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 佐藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市) 学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>県知事賞 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村) 県中央会会長賞 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 斎藤芽衣子(朝日村) 優秀賞 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(榊引町) 田中 麻衣(山形市) 斎藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 安達 千季(三川町) 古川 悠(高畠町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 清和 千秋(榊引町) 瀧口 夏子(天童市) 庄司 千鶴(朝日村) 学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>県知事賞 本間 明音(鶴岡市) 渡部 大地(朝日村) 有賀真紀子(朝日村) 県中央会会長賞 黒坂 雄志(最上町) 竹田実穂子(米沢市) 斎藤芽衣子(朝日村) 優秀賞 結城 智裕(最上町) 岸 詩音(最上町) 高橋 隆浩(高畠町) 稲葉 彬(天童市) 近野健三郎(高畠町) 阿部 晴美(最上町) 小野寺美夏(朝日村) 大谷部汐李(飯豊町) 原田 久美(最上町) 田中絵理加(最上町) 結城 重則(東根市) 高橋 愛実(山形市) 佐藤 牧(朝日村) 原田 智広(高畠町) 本木いずみ(東根市) 学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>県知事賞 三浦 春菜(鶴岡市) 黒坂 星児(最上町) 萩原菜々美(高畠町) 県中央会会長賞 大石 美恵(最上町) 菅 喜美広(最上町) 森谷さとと(天童市) 優秀賞 阿部 裕子(尾花沢市) 菅原 南(鶴岡市) 高橋 隆浩(高畠町) 加藤 梓(鶴岡市) 藤畑 康宏(最上町) 佐藤 秀樹(最上町) 奥山 恵里(最上町) 石山 崇人(最上町) 阿部 留佳(朝日町) 菅 晃菜(最上町) 島津 智子(高畠町) 佐藤真寿美(高畠町) 阿部 哲(南陽市) 伊藤 千尋(朝日村) 小川 結(山形市) 学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 高畠町立第一中学校</p>	<p>県知事賞 加藤 梓(鶴岡市) 加賀 知世(尾花沢市) 村山 直美(天童市) 県中央会会長賞 橋本 菜穂(最上町) 原田 久美(最上町) 小座間裕子(天童市) 優秀賞 岸 健一朗(最上町) 山田 寿広(最上町) 大石 美恵(最上町) 後藤 明美(高畠町) 近野 健二(高畠町) 大場 哲也(最上町) 石山 雄洋(最上町) 石山満理奈(最上町) 佐藤 康徳(米沢市) 斎藤真貴子(朝日村) 氏居 生良(山形市) 前田 恵美(山形市) 中嶋 桃子(山形市) 原田 優子(天童市) 五十嵐小夜子(天童市) 学校奨励賞 高畠町立屋代小学校 天童市立第二中学校</p>
<p>県知事賞 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市) 県中央会会長賞 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 恵梨(山形市) 優秀賞 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 国分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 趙史(尾花沢市) 安達 美咲(高畠町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 村村 里奈(山形市) 村上 美紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市) 学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長瀧 絵理(山形市) 県中央会会長賞 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市) 優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 片岡 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗矢佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市) 学校奨励賞 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑤子(山形市) 県中央会会長賞 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市) 優秀賞 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石田町) 結城 弘斗(最上町) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 井上 庸(上市市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市) 学校奨励賞 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 五十嵐祐大(鶴岡市) 菅野 瞳(尾花沢市) 武田 彩子(山形市) 県中央会会長賞 西塚 真治(尾花沢市) 今野 里紗(鶴岡市) 長尾 藍(山形市) 優秀賞 小林 由典(白鷹町) 落合 和也(尾花沢市) 木村 和人(鶴岡市) 佐藤 綾子(尾花沢市) 本間 翔太(尾花沢市) q 橋 茉莉(最上町) 大山 美幸(尾花沢市) 赤松かおり(最上町) 工藤 竜也(尾花沢市) 佐藤 伸也(新庄市) 鈴木 裕子(山形市) 友寄 歩惟(上市市) 庄司美智子(上市市) 遠藤真理子(山形市) 遠藤由紀子(山形市) 学校奨励賞 鶴岡市立栄小学校 上市市立北中学校</p>	<p>県知事賞 本間 裕紀(尾花沢市) 飛渡 沙織(大石田町) 菊池 佳子(山形市) 県中央会会長賞 遠藤 美佳(尾花沢市) 渡部 達(朝日村) 佐藤 瑤子(山形市) 優秀賞 伊藤 由貴(尾花沢市) 渡部みなみ(高畠町) 荒木 渚(鮭川村) 横山 浩輔(尾花沢市) 高橋 真美(最上町) 北條 隆大(最上町) 星川 瑠美(尾花沢市) 小野 貴紀(尾花沢市) 高橋 梨絵(最上町) 庄司 修(最上町) 溝越 清美(山形市) 公平 央恵(米沢市) 小野 展裕(山形市) 武田 彩子(山形市) 吉田由紀子(山形市) 学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>県知事賞 渡邊 克也(最上町) 有路 沙織(尾花沢市) 菊池 佳子(山形市) 県中央会会長賞 大山 和(尾花沢市) 高橋 雄太(尾花沢市) 會田 恵里(山形市) 優秀賞 須藤 賢東(山形市) 古瀬 友香(尾花沢市) 伊藤 敏彦(尾花沢市) 岡野 浩美(最上町) 加地華南子(高畠町) 花輪みゆき(天童市) 笹原可奈子(尾花沢市) 五十嵐隆介(尾花沢市) 古瀬智佳子(尾花沢市) 武田ゆかり(尾花沢市) 高橋 栄(山形市) 栗原 美穂(山形市) 阿部 誠司(山形市) 丹 奈帆子(山形市) 寺崎 久世(山形市) 学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第五中学校</p>

第26回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール審査経過の概要

応募数

作文：279点
図画：1,155点 計1,434点

	第1部	第2部	第3部	計
作文	45点	143点	91点	279点
図画	731点	408点	16点	1,155点

最終審査

審査期日

平成14年1月16日(水)

入賞作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点
山形県農協中央会会長賞 作文3点、図画3点
優秀賞 作文15点、図画15点
学校奨励賞 作文2校、図画2校

審査員

作文部門：生田 浩樹（山形県教育庁義務教育課指導主事）
小沼裕佳理（山形大学教育学部附属小学校教諭）
井上千香子（上山市立宮生小学校教諭）
伊藤恵美子（山形市立第三中学校教諭）
岡崎 悦子（山形市立第九中学校教諭）

図画部門：清野 勝（山形市立第九小学校校長）
堀 美保子（山形市立第七小学校教諭）
渋間 靖（天童市立第四中学校教諭）
笹原 聡（山形大学教育学部附属中学校教諭）

表彰式

平成14年2月16日(土)

山形市「オーヌマホテル」

年度	部門	第1部	第2部	第3部	合計
H.1 (第14回)	作文 図画	339(16,939) 1,099(49,544)	416(23,538) 870(42,360)	188(21,613) 33(7,993)	943(65,892) 2,002(102,487)
2 (第15回)	作文 図画	397(18,530) 1,740(51,660)	670(25,865) 1,145(47,857)	156(23,281) 46(6,642)	1,223(67,695) 2,931(106,186)
3 (第16回)	作文 図画	253(15,871) 1,031(53,569)	402(22,411) 878(39,664)	104(23,719) 43(7,041)	759(62,018) 1,952(100,668)
4 (第17回)	作文 図画	212(10,855) 982(37,898)	350(15,748) 767(30,849)	135(20,947) 32(7,084)	697(62,370) 1,781(97,287)
5 (第18回)	作文 図画	210(10,947) 1,276(45,945)	359(16,482) 964(36,959)	217(20,582) 54(6,145)	786(48,027) 2,294(90,817)
6 (第19回)	作文 図画	167(12,358) 1,164(48,403)	330(19,616) 820(43,959)	179(29,287) 53(8,351)	676(61,263) 2,037(100,719)
7 (第20回)	作文 図画	220(9,768) 781(39,360)	300(12,807) 647(33,860)	138(17,924) 23(4,728)	658(40,530) 1,451(77,961)
8 (第21回)	作文 図画	201(9,566) 639(35,665)	337(13,268) 507(31,461)	152(17,699) 66(3,932)	690(40,537) 1,212(71,060)
9 (第22回)	作文 図画	63(8,739) 643(33,970)	229(11,912) 461(30,601)	69(17,636) 40(6,139)	361(38,289) 1,144(70,715)
10 (第23回)	作文 図画	75(9,432) 907(32,993)	137(11,501) 594(27,633)	117(15,602) 47(5,608)	329(36,535) 1,548(66,264)
11 (第24回)	作文 図画	108(9,372) 869(32,851)	195(11,059) 450(27,811)	108(14,749) 26(3,919)	411(35,184) 1,345(64,583)
12 (第25回)	作文 図画	65(8,822) 495(30,459)	122(11,028) 311(26,456)	112(13,893) 9(4,665)	299(33,743) 815(61,580)
13 (第26回)	作文 図画	45(8,832) 731(32,280)	143(11,974) 408(27,756)	91(13,451) 16(5,382)	279(34,257) 1,155(65,418)

()内の全国の合計点数には、区分不明な点数も含まれています。

第26回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領

1. 趣旨

このコンクールは、ごはん食や稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

2. 「作文・図画の課題」「応募資格」「応募規格(枚数・大きさ)」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

(注) 応募作品は返却いたしません。また、作品の著作権は山形県農業協同組合中央会に属します。

【課題】(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでのおいしかったことや家族とのコミュニケーション、さらにお米に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。なお、盲学校、聾学校および養護学校の小学部、中学部も上記の小学校、中学校に準ずるものとします。

【応募規格】(枚数・大きさ)

作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙2枚以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰市販原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙4枚以内)

図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
 - 2部 小学校4年生～6年生
 - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。
地域によって多少サイズは異なります。

【応募規則】

課題にそった作品を対象とします。
他のコンテストに応募していない作品に限ります。
ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
学校で応募の際は、別添の応募者明細表を必ず添付してください。
作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。

作品の題名 学校所在地(郵便番号・電話番号)
氏名・性別 本人住所(郵便番号・電話番号)
学校名・学年・組 J A名(農協名)

3. 締切日

平成13年10月10日(水)(必着)

4. 入賞発表

全国発表 平成13年12月3日(月)
本県発表 平成14年1月下旬

5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

山形県知事賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書券)

山形県農業協同組合中央会会長賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書券)

優秀賞

両部門各部門ごとに5名 計30名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書券)

学校奨励賞

両部門ごとに2校 計4校
(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書券)

6. 審査員

県教育庁、小・中学校教諭、J A山形中央会

7. 応募先

- (1) 県内の各J Aを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次に問合わせください。

〒990-0042
山形市七日町三丁目1-16
山形県農業協同組合中央会
(J A山形中央会)
営農農政部営農農政課
「作文・図画募集」係
TEL 023-634-8115
FAX 023-633-1754

8. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。
- (2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の題名		
ふりがな		性別
氏名		男・女
ふりがな		
学校名	立	学校 年組
ふりがな		
学校所在地	〒	TEL
ふりがな		
本人住所	〒	TEL
J A名 (農協名)		

(注) 太い線で囲んだ部分は必ず記入して下さい。ふりがなも必ず記入して下さい。

表紙は、図画1部 山形県農業協同組合中央会会長賞 尾花沢市立福原中部小学校1年 武田翼君の作品です。

